

NPO・NGO入門

担当教員 -具志 真孝

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会の変化が著しく、地域住民の生活が多様化・複雑化していく中で、公共サービスの中心的な担い手であった行政にも限界が生じてきており、新たに公共サービスの担い手としてNPOが注目されてきた。この入門講座では、NPOに関する基礎的な知識・技能の修得をめざすとともに、NPOが学生の就職選択肢の一つとしての学習の機会になることを期待したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	「NPOとは何か ～市民参加と社会的役割～」
2	「NPO法人とは何か ～経済・社会情勢との関わりを通して～」
3	「那覇市におけるNPO活動支援の取り組み」
4	「オーストラリアの事例紹介（1）」
5	「オーストラリアの事例紹介（2）」
6	「地域通貨とコミュニティ～世界の事例を通して考える～」
7	「NPO（市民団体）の活動紹介」
8	「ワークショップ ～NPOをつくろう、リエンション～」
9	「ワークショップ ～NPOをつくろう、理念づくり～」
10	「ワークショップ ～NPOをつくろう、理念づくり～」
11	「ワークショップ ～NPOをつくろう、現状把握～」
12	「ワークショップ ～NPOをつくろう、現状把握～」
13	「ワークショップ」～NPOをつくろう、未来デザイン～」
14	「ワークショップ ～NPOをつくろう、方針・方策～」
15	「ワークショップ」～NPOをつくろう、方針・方策～」
16	まとめ ～振り返り～

【履修上の注意事項】

できるだけNPOに関心のある学生の授業参加を求める。

【評価方法】

授業の出席日数、レポート、ワークショップでの討議状況などを勘案して、総合的に評価する。具体的には、主としてレポートを精査して、入門講座としての基礎的な知識の習得を基準とした評価をしたい。

【テキスト】

特に指定はない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

- ・「NPO基礎講座」～市民社会の創造のために～ 山岡義典編著 ぎょうせい
- ・「にいがたまちづくり事典 マチダス」企画・編集・発行 財団法人ニューにいがた振興機構 制作（株）博進堂

NPO・NGO入門

担当教員 小阪 亘

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業のテーマは「アクション」。実際にNPOのスタッフやリーダーとして活動する人を招き、沖縄の社会課題や、解決に向けて社会に仕組みをつくり活動する現場を学ぶ。事例実践者とともに社会課題解決に向けて議論と提案をする。また、NPOについての理解を深めるためにレクチャーを挟みながら、社会課題に気づきアクションを起こす力を育むことを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 自己紹介（取り組む活動紹介）
2	社会におけるNPOの役割これまでとこれから（NPOとは、歴史と誕生など）
3	事例1（学生NPO）（事例発表学習＋議論＋提案＋ミニレポート、以下同じ）
4	事例2（学生NPO）
5	事例3（学生NPO）
6	NPOを運営するためには
7	NPOと行政、企業との協働
8	事例4（高齢者問題に取り組むNPO）
9	事例5（障がい者問題に取り組むNPO）
10	事例6（人権問題に取り組むNPO）
11	事例7（環境問題に取り組むNPO）
12	事例8（まちづくり問題に取り組むNPO）
13	事例9（子育て問題に取り組むNPO）
14	事例10（若者問題に取り組むNPO）
15	本当に社会に必要とされる仕組みをつくるために（まとめ、ふりかえり）
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・事例発表のテーマやNPOについては変更する場合がある。
- ・授業への参加人数や状況によっては（事例4～10）については、授業履修者にコーディネートしてもらう。

【評価方法】

授業参加（出席回数や授業への議論への参加度など）、毎回授業終了時に簡単なミニレポートを書き出席とする。レポートの提出状況、期末レポートによって判断。

【テキスト】

授業ごとに配布

【参考文献】

- 加藤哲夫著「一夜でわかる！NPOのつくり方」（主婦の友社 2004年）
 デビッド・ボーンステイン著「世界を変える人たち」（ダイヤモンド社 2007年）
 駒崎弘樹著「社会を変える」お金の使い方」（英治出版 2010年）

企業を知る I

担当教員 村上 了太

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、広く企業を理解するために設けられた科目であり、初学者に向けて経営学を概説することが目的である。経営学を理解するために、まず企業とは何かを平易に説明する。同時に「働く意味」についても考えていきたい。そして受講生のキャリア形成にも貢献する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	成績の評価基準と出席確認方法などの説明
2	キャリアとしての企業
3	生活に密着している企業
4	携帯電話で企業を考える
5	自動車で企業を考える
6	航空で企業を考える
7	企業の責任（事故、不祥事、欠陥商品）
8	中間試験
9	職場の組織を考える
10	人間をどのように管理するか①
11	人間をどのように管理するか②
12	経営学の役割
13	就労、就社そして就職①
14	就労、就社そして就職②
15	まとめと質疑応答
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 私語、講義中の携帯電話使用、理由なき途中退席は厳禁である
- (2) 講義の進捗状況によっては、計画を前後させる場合がある
- (3) 就職内定者の活動状況を紹介する場合もある。

【評価方法】

出席（50％）と試験（50％）

【テキスト】

日経CSRプロジェクト編『CSR 働く意味を問う』日本経済新聞出版社、2007年

【参考文献】

各回の講義の際、必要に応じて紹介する

企業を知るⅡ

担当教員 村上 了太

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義の目的は、「企業を知るⅠ」を基礎に、実際の企業行動を概観していくことにある。とりわけわれわれが日頃接している「企業」の実例を挙げながら、経営学を考えていくことに時間を費やしていきたい。「企業を知るⅠ」と同様、受講生のキャリア形成にも貢献する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の説明
2	業界研究①
3	業界研究②
4	業界研究③
5	業界研究④
6	業界研究⑤
7	業界研究⑥
8	中間試験
9	商品に関わる問題事例①
10	商品に関わる問題事例②
11	商品に関わる問題事例③
12	商品に関わる問題事例④
13	商品に関わる問題事例⑤
14	商品に関わる問題事例⑥
15	まとめと質疑応答
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 「企業を知るⅠ」からの履修を勧めるが、履修条件とはしない
- (2) 企業活動から生まれる諸問題は常に変化している。なるべくアップトゥーデートな内容を提供する
- (3) 私語、講義中に携帯電話使用、理由なき途中退席は厳禁である
- (4) 就職内定者の活動状況を紹介する場合もある

【評価方法】

出席（50％）および試験（50％）

【テキスト】

日経CSRプロジェクト編『CSR 働く意味を問う』日本経済新聞出版社、2007年

【参考文献】

各回の講義の際、必要に応じて紹介する

教育学 I

担当教員 野見 収

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「教育学」という学問領域がよって立つ地平を、社会、発達、思想、生命、人権、平和といった観点から確認し、今後、学生が教育について考えていく際に必要となるであろう基礎的視角を提供する。本講義を通じて、教育という営みに対する学生の興味関心が、より深いものになることを期待する。

【授業の展開計画】

- 1 インTRODakション
- 2 学力と教育—「学力低下」問題
- 3 学歴社会と教育—「学歴の再生産」問題
- 4 発達と教育（1）—野生児の記録①
- 5 発達と教育（2）—野生児の記録②
- 6 特色ある教育の思想と実践（1）—シュタイナー教育①
- 7 特色ある教育の思想と実践（2）—シュタイナー教育②
- 8 特色ある教育の思想と実践（3）—生活綴り方教育①
- 9 特色ある教育の思想と実践（4）—生活綴り方教育②
- 10 生命と教育（1）—デス・エデュケーション
- 11 生命と教育（2）—優生学と教育
- 12 人権と教育（1）—人種差別と教育
- 13 人権と教育（2）—「部落」問題と教育
- 14 平和と教育（1）—戦前・戦中の国家主義教育
- 15 平和と教育（2）—戦後教育の理念と課題
- 16 定期試験

【履修上の注意事項】

遅刻、私語、無断欠席は認めない。毎回、授業終盤に小レポートを課す。

【評価方法】

受講態度、小レポートの提出状況およびその内容、期末試験の結果によって総合的に評価する。なお、三分の二以上の出席がなければ、期末試験の受験は認めない。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。レジユメを配布する。

【参考文献】

授業中に紹介する。

教育学Ⅱ

担当教員 野見 収

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教育という営みを支える基礎原理を、歴史・思想・制度といった多角的な視点から読み解き、その限界と可能性を確認しながら、今後の教育のあるべき姿を学生とともに模索する。教育学Ⅰと同じく、学生が今後、教育について考えていく際に必要となるであろう基礎的視角の提供を目的とする。

【授業の展開計画】

- 1 イントロダクション
- 2 子ども理解について（1）—臨床心理学の知見①
- 3 子ども理解について（2）—臨床心理学の知見②
- 4 教師と教育（1）—今日の教師をとりまく社会的状況①
- 5 教師と教育（2）—今日の教師をとりまく社会的状況②
- 6 教師と教育（3）—「教師—生徒」関係の課題
- 7 性と教育（1）—性教育の現状
- 8 性と教育（2）—性教育の歴史
- 9 性と教育（3）—性と人間発達の理論
- 10 教育の現代的課題（1）—適応障害
- 11 教育の現代的課題（2）—いじめ・不登校・学級崩壊
- 12 教育の現代的課題（3）—モンスター・ペアレント
- 13 沖縄と教育（1）—戦前戦中の沖縄における学校教育
- 14 沖縄と教育（2）—戦後の沖縄における学校教育
- 15 いのちの教育について
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

遅刻、私語、無断欠席は認めない。毎回、授業終盤に小レポートを課す。

【評価方法】

受講態度、小レポートの提出状況およびその内容、期末試験の結果によって総合的に評価する。なお、三分の二以上の出席がなければ、期末試験の受験は認めない。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。

【参考文献】

授業中に紹介する。

経済学 I

担当教員 仲地 健

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、経済を構成する個々の消費者や企業はどのような行動をとるのか、市場において財・サービスの価格や数量はどのように決定されるのかを学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	需要曲線と供給曲線
3	市場均衡と均衡の安定性
4	需要曲線・供給曲線のシフト
5	価格弾力性①
6	価格弾力性②
7	余剰分析①
8	余剰分析②
9	最適消費の決定と需要曲線の導出①
10	最適消費の決定と需要曲線の導出②
11	生産量の決定と供給曲線の導出①
12	生産量の決定と供給曲線の導出②
13	パレート効率性
14	市場の失敗と独占
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

私語は厳禁

【評価方法】

期末試験の結果で評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

三土修平『はじめてのミクロ経済学』日本評論社

経済学Ⅱ

担当教員 宮城 和宏

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は経済学をはじめて学ぶ学生が、経済学の入門的知識を習得することにより日常の経済現象を少しでも理解できるようになることを目的としている。経済学はミクロ経済学とマクロ経済学に大別できるが、経済学Ⅱでは主にマクロ経済学を学習することになる。

【授業の展開計画】

- 第1回 インTRODダクション：講義内容の紹介
- 第2回 国民所得の諸概念
- 第3回 //
- 第4回 三面等価の原則
- 第5回 ISバランス論
- 第6回 物価の計算
- 第7回 財市場の分析
- 第8回 国民所得の決定
- 第9回 流動性選好理論
- 第10回 投資の理論
- 第11回 金融政策
- 第12回 古典派とケインズ派の利子論・貨幣論
- 第13回 財市場の分析（IS曲線）
- 第14回 貨幣市場の分析（LM曲線）
- 第15回 財市場と貨幣市場の同時均衡 16回目にテストを行います

【履修上の注意事項】

経済学Ⅰを履修済みであることが望ましいが、講義自体はそれを前提としない。

【評価方法】

出席態度、授業への参加度（質問等）、期末試験で総合的に評価する。

【テキスト】

特になし（レジュメ等を配布する）

【参考文献】

マクロ経済学の入門書は多数出版されているので各自に合ったものを参照すること。

社会学 I

担当教員 末吉 重人

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は共通科目であるため、親しみやすさを目指し前期は興味を持ちやすいアップデートな「社会問題」を扱う。

【授業の展開計画】

第1回	シラバスの説明	第9回	社会福祉（ノーマライゼーション等）
第2回	マスコミ論入門	第10回	〃（ビデオ使用、介護保険等）
第3回	〃（ビデオ使用）	第11回	教育問題（学校の教育力）
第4回	家族問題入門（沖縄の離婚）	第12回	〃（地域・社会の教育力、ビデオ使用）
第5回	〃（虐待、ビデオ使用）	第13回	宗教の問題（世界の宗教）
第6回	「男女共同参画」問題	第14回	〃（沖縄の世界観、ビデオ使用）
第7回	「ジェンダー」の問題	第15回	期末テスト
第8回	安全保障の問題		

【履修上の注意事項】

授業の半分は質問用紙を使ったQ & A形式で進行したい。私語は厳禁。退場もある。これは厳格に行う。授業に出席しないとテストが解けないので、そのつもりで受講すること。

【評価方法】

前後期とも期末テスト（80点）と出席点（20点）で評価する。

【テキスト】

『書き込み式社会学入門』（末吉重人、球陽出版、2007年：700円）

【参考文献】

伊江朝章、波平勇夫、鵜飼照喜編『現代教養としての社会学』、福村出版、1989年

社会学Ⅱ

担当教員 末吉 重人

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

後期は理論的な社会学を紹介する。社会学成立の背景となったフランス革命をおさらいし、それから代表的な社会学者・理論を取り上げる。特に最近毎年三万人を超えている自殺者問題をデュルケムの際に扱う。

【授業の展開計画】

第1回	シラバスの説明	第9回	ウェーバーの支配社会学
第2回	社会学の始まりーコント	第10回	機能主義社会学とパーソンズ
第3回	デュルケムの社会学	第11回	パーソンズのAGIL
第4回	デュルケムの自殺論	第12回	パーソンズ以降の社会学
第5回	自殺の「ビデオ教材」視聴	第13回	マートンの中範囲理論
第6回	マルクス主義社会学	第14回	期末テスト
第7回	マルクス主義と社会主義諸国	第15回	ポストモダニズム
第8回	ウェーバーの近代化理論		

【履修上の注意事項】

授業の半分は質問用紙を使ったQ & A形式で進行したい。私語は厳禁。退場もある。これは厳格に行う。授業に出席しないとテストが解けない仕組みなので、そのつもりで履修すること。

【評価方法】

前後期とも期末テスト（80点）と出席点（20点）で評価する。

【テキスト】

『書き込み式社会学入門』（末吉重人、2010年：700円）

【参考文献】

『社会学講義』富永賢一、中公新書、1995年初版、900円

社会福祉入門 I

担当教員 竹藤 登

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 現代社会における社会福祉の意義、理念について理解させる。
2. 社会福祉の歴史・理念の変遷について理解させる。
3. 現代社会福祉の重要課題を理解させる。
4. 福祉新法について理解させる。
5. 人権と権利、権利擁護システムについて理解させる。
6. ソーシャルワークの実践を理解させる。

【授業の展開計画】

講義方式

1. 社会福祉とは 社会福祉の視点
2. 福祉の理念の変遷 歴史的背景 ノーマライゼーション
3. 福祉基礎構造改革 措置から契約へ
4. ソーシャルワーカーとは ソーシャルワーカーの役割
5. 介護保険法の概要
6. 障害とは 障害者の心理
7. 自立とは 自立支援とは
8. 障害者自立支援法
9. 人権と権利 権利擁護システム
10. 苦情解決 オンブズマンシステム
11. 成年後見制度の概要
12. 成年後見活動の実際
13. ソーシャルワーク実践事例①
14. ソーシャルワーク実践事例②
15. まとめとテスト

【履修上の注意事項】

【評価方法】

テスト実施

【テキスト】

その都度資料配布

【参考文献】

社会福祉入門Ⅱ

担当教員 竹藤 登

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 社会福祉援助技術の実際について理解させる。
2. 倫理性を身につける。
3. 個別援助技術を学ぶ。
4. 集団援助技術を学ぶ。
5. ケアマネジメント手法を学ぶ。
6. 社会福祉運営管理方法を学ぶ。
7. スーパービジョンを体験する。

【授業の展開計画】

講義形式及び演習形式

1. 自己覚知
2. コミュニケーション技術演習
3. 面接技法演習
4. 利用者理解 利用者の困難性を環境因子から考える
5. 価値と倫理 倫理綱領を考える
6. 社会福祉援助技術の基本原理と種類
7. 個別援助技術（ケースワーク）の実際
8. 集団援助技術（グループワーク）の実際
9. 地域援助技術（コミュニティーワーク）の実際
10. ケアマネジメント手法の実際
11. ケアマネジメント演習
12. 社会福祉運営管理の実際（人事管理）
13. リスクマネジメント リスク管理と苦情解決
14. スーパービジョンの実際
15. まとめとテスト

【履修上の注意事項】

【評価方法】

テスト実施

【テキスト】

その都度資料配布

【参考文献】

女性と社会

担当教員 -恵 隆之介

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

戦前の沖縄は男尊女卑の風習が強く女性の人権は著しく低かった。一方沖縄は亜熱帯の気候と衛生思想普及の遅れから感染症が蔓延していた。結果、結核、ハンセン病等の感染症罹患率は全国平均の8倍強という数値を示し、戦前県民の寿命は47歳と短命であった。ところが戦後感染症は撲滅され、日本復帰以降最長寿県を長く維持した。これは戦後米軍政府が看護学校を創設し公衆衛生看護システム（地域保健衛生システム）を県内に確立させ、女性への衛生思想を定着させたことによる。本講義では世界各地の女性の教育レベルと衛生環境を比較対照しながら、女性の資質向上が社会発展にいかにかに寄与するかを学生に認知させたい。

【授業の展開計画】

まず沖縄の戦前史を医療や公衆衛生の視点より分析する。当時の県民の疾病種別、罹患率を分析すればその社会状況を客観的に把握できる。次に米軍政府統治時代のそれを比較検討させる。特に全国的に極めて高レベルにあった看護婦育成システムについて言及する。最後に日本復帰から現在までを比較検討する。戦前世代は現在、長寿を維持しているが、40・50代の戦後世代は糖尿病、癌の罹患率が高く、メタボ率に至っては全国ワーストワンである。女性の衛生思想と人材育成こそが長寿県への回復に繋がることを教授したい。

週	授 業 の 内 容
1	女性の教育レベルと社会発展の相関関係について
2	琉球王国時代の女性の地位
3	廃藩置県以降に見る沖縄女子教育の開始と、高等女学校創設までの経緯
4	戦前沖縄の看護婦（保健婦）育成と衛生環境
5	沖縄戦に於ける沖縄女性とりわけ看護婦の活躍
6	米軍政府による公衆衛生システムの確立と女子大学教育の開始
7	日本看護協会が驚嘆した沖縄看護婦育成システム
8	戦前戦後の沖縄の女権比較
9	沖縄出身看護学校長 真玉橋ノブ
10	米軍看護教官ケーザー女史
11	米軍看護顧問官ウォーター・ワース女史
12	沖縄出身看護教官 金城サエ
13	諸外国に見る女権と識字率
14	女性の社会進出と独身傾向問題
15	低体重児発生にみる現代女子教育の問題点
16	講義のまとめ

【履修上の注意事項】

沖縄女性の勤労意欲とポテンシャルは戦前、戦後を通じて国内外の識者から評価されていた。明治期に来県した森有礼文相も沖縄女性の労働意欲を絶賛すると共に、女子教育の重要性について強調した。が、当時の県民は従わなかった。戦後沖縄に進駐した米軍はこの沖縄女性に対し大学教育、職能教育、衛生教育を行ったが、これが現在の沖縄振興の根幹をなしている。私はジンバブエ等の発展途上国と比較しながら女性教育の重要性を学生に認識してもらい、国際社会に尽くせる人材を育成して行きたい。

【評価方法】

定期試験の結果と出席状況で判断。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

「医療経済に関する理論的実証研究特別研究『沖縄の医療』」（1980年7月 中央社会保険医療協議会刊）、Public Health and Sanitation programs were keys to Economic Development(2003.6. Article issued by East Asia Institute, Columbia University), 「誰も書かなかった沖縄」（2000年7月、PHP研究所刊）

政治学 I

担当教員 芝田 秀幹

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

政治学をはじめて本格的に学ぶ者のために、政治学上の基礎概念を解説するとともに、政治の原理、政治構造、政治の作動について全般的に理解できるように講義する。なお、今年度から、「政治学 I」は、単に政治学の学術的内容を紹介するのに留まらず、それを沖縄の現状と関連付けながら、それも従来の沖縄政治論にはない新視点から講義を進める予定である。ただ、扱う内容が広範に亘るため、「政治学 I」では、とりあえず以下のテーマを扱い、それ以外に関しては「政治学 II」に委ねることとする。是非とも「政治学 II」も履修して欲しい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	政治学を学ぶ意味 - 「居酒屋政治談義」を超えて -
2	政治 - 「身近な」政治と「縁遠い」政治 -
3	国家 (1) - 近代国民国家とその正統化原理 -
4	国家 (2) - ナショナリズムの意味とNation/Ethnicityとしての民族 -
5	国家 (3) - 日本民族と沖縄人：「うちなんちゅー」は何人？ -
6	政策 (1) - 日本の政治過程と政策形成過程 (1) -
7	政策 (2) - 日本の政治過程と政策形成過程 (2) -
8	官僚 (1) - キャリア官僚の実態 -
9	官僚 (2) - 談合と「天下り」の密接な関係 -
10	官僚 (3) - 沖縄県発注の建設工事に係る入札談合事件 -
11	世論とメディア (1) - 世論へのマスメディアの影響と日本の新聞 -
12	世論とメディア (2) - 沖縄のメディアの功罪 -
13	デモクラシー (1) - 自由・民主主義と全体主義・ナショナリズム -
14	デモクラシー (2) - 討議・闘技デモクラシーと沖縄 -
15	講義のまとめ - 「1:46」ではなく「1/47」の視座で -
16	試験

【履修上の注意事項】

「政治学 II」も履修することが望ましい。

【評価方法】

定期試験の結果と出席状況で判断。

【テキスト】

使用しない。プリントを適宜配布。

【参考文献】

開講時に指定。

政治学Ⅱ

担当教員 芝田 秀幹

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

政治学をはじめて本格的に学ぶ者のために、政治学上の基礎概念を解説するとともに、政治の原理、政治構造、政治の作動について全般的に理解できるように講義する。なお、今年度から、「政治学Ⅱ」は、単に政治学の学術的内容を紹介するのに留まらず、それを沖縄の現状と関連付けながら、それも従来の沖縄政治論にはない新視点から講義を進める予定である。ただ、扱う内容が広範に亘るため、「政治学Ⅱ」では、前期の「政治学Ⅰ」では扱えなかったテーマを扱う。「政治学Ⅱ」受講者は予め「政治学Ⅰ」を受講しておいて欲しい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	政治を見る視点 - 政治学と政治 -
2	日本国と東アジア (1) - 尖閣諸島・竹島を巡って -
3	日本国と東アジア (2) - 日本国・沖縄県・台湾・中華人民共和国 -
4	日本国と東アジア (3) - 「東アジア共同体」批判 -
5	安全保障 (1) - 自衛隊と日米安保条約 -
6	安全保障 (2) - 在日米軍基地 (1) : 米軍基地「75%」集中? -
7	安全保障 (3) - 在日米軍基地 (2) : 他府県の米軍基地 -
8	戦争と平和 (1) - 国際関係における安全保障 (1) -
9	戦争と平和 (2) - 国際関係における安全保障 (2) -
10	戦争と平和 (3) - 絶対平和主義批判 -
11	政治の心理 (1) - 政治文化・政治的態度・政治的価値観 -
12	政治の心理 (2) - 沖縄県の政治文化 -
13	中央地方関係 (1) - 地方自治と地方分権 -
14	中央地方関係 (2) - 「沖縄自治州」批判 -
15	講義のまとめ - 「1:46」ではなく「1/47」の視座で -
16	試験

【履修上の注意事項】

「政治学Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【評価方法】

定期試験の結果と出席状況で判断。

【テキスト】

使用しない。プリントなどを適宜配布。

【参考文献】

開講時に指定。

地理学 I

担当教員 崎浜 靖

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地理学には、2つの二元論（分類）がある。まず特定の地域を対象に、自然環境から人文環境について総合的に記述する地誌学と、系統科学との関係から地域をみる系統地理学による分類である。また、自然環境を主に地域的特性を考証する自然地理学と、人文・社会現象を主に地域的特性を考証する人文地理学による分類もある。総じて言えることは、人間と空間・場所との関わりを明らかにすることが地理学の大きな目標である。本講義では、人と空間・場所との関係性を、環境論の観点から検討したい。

【授業の展開計画】

- 1 地理学の成立と本質
- 2 地図の利用①－古地図の読解－
- 3 地図の利用②－地形図の基礎－
- 4 地図の利用③－主題図の作成－
- 5 地域と景観①－韓国済州島の景観－
- 6 地域と景観②－サイパン島・テニアン島・ロタ島の景観－
- 7 地域と景観③－台湾の景観－
- 8 環境と生態①－熱帯地域の環境－
- 9 環境と生態②－湿潤地域の環境－
- 10 環境と生態③－乾燥地域の環境－
- 11 環境と生態④－寒帯地域の環境－
- 12 開発と環境変化①－疾病（マラリア）と地理的環境－
- 13 開発と環境変化②－土地利用変化と居住環境－
- 14 開発と環境変化③－都市の立地とヒートアイランド現象－
- 15 開発と環境変化④－都市再開発と経済活動－
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

地図帳を持参して講義に参加すること。出席と課題の提出を重視するので、注意すること。

【評価方法】

期末試験と課題点、出席状況により総合的に判断する。

【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

地理学 I

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地理学は地球上の自然環境や産業、文化などについて、地域という視点から考察する総合科学である。地理学 I では、地球上の自然環境と資源と産業について学習する。必要に応じて、パワーポイント(スライド)やビデオ教材の利用、参考文献の紹介、講義関連資料等の配布も随時行う予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地形 ①
2	地形 ②
3	気候 ①
4	気候 ②
5	植生と土壌、水資源について
6	自然災害と環境問題①
7	自然災害と環境問題②
8	世界の農業形態①
9	世界の農業形態②
10	世界の農業形態③
11	林業と水産業
12	エネルギーと資源
13	世界の工業地域①
14	世界の工業地域②
15	世界の工業地域③
16	テスト

【履修上の注意事項】

小レポートを数回提出してもらう。また、この授業は教科書と地図帳および配布プリントをベースとして進めるので、必ず教科書と地図帳は購入すること。なお、地図帳については、高校生用の地図帳がある場合にはそれでもかまわない。出席を重視するので1/3以上欠席した場合には単位は認定しないので、注意すること。また、追試・再試は行わない。

【評価方法】

小レポート、テスト、出席状況で総合的に判断する。

【テキスト】

新詳 資料 地理の研究、B5判 344ページ 定価980円
 新詳高等地図 1,575円 帝国書院

【参考文献】

授業の中でその都度紹介する。

地理学Ⅱ

担当教員 崎浜 靖

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地理学には、2つの二元論（分類）がある。特定の地域を対象に、自然環境から人文環境について総合的に記述する地誌学と、系統科学との関係から地域をみる系統地理学による分類がある。また、自然環境を主に地域的特性を考証する自然地理学と、人文・社会現象を主に地域的特性を考証する人文地理学による分類もある。総じて言えることは、人間と自然、人間と空間・場所との関わりを明らかにすることが地理学の大きな目標である。本講義では、とくに人間と空間・場所の関係性を、世界・日本の各地域を事例に検討したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	地理学の本質と原理
3	立地と空間①－農業－
4	立地と空間②－工業－
5	立地と空間③－流通・卸売業－
6	立地と空間④－観光業－
7	立地と空間⑤－都市の立地－
8	都市の構造と成長
9	島嶼都市の特徴
10	都市および都市問題①
11	都市および都市問題②
12	都市および都市問題③
13	政治と社会空間①
14	政治と社会空間②
15	政治と社会空間③
16	期末試験

【履修上の注意事項】

地図帳を持参して講義に参加すること。出席と課題の提出を重視するので、注意すること。

【評価方法】

期末試験と課題点、出席状況により総合的に判断する。

【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

地理学Ⅱ

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地理学は地球上の自然環境や産業、文化などについて、地域という視点から考察する総合科学である。地理学Ⅱでは、地図とGIS、地理学の歴史、生活文化とグローバル化について学習する。必要に応じて、パワーポイント(スライド)やビデオ教材の利用、参考文献の紹介、講義関連資料等の配布も随時行う予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生活空間の拡大と地図の発達
2	さまざまな地図
3	地形図の活用の仕方
4	地形図の活用の仕方
5	地理情報システムとリモートセンシング
6	村落と都市①
7	村落と都市②
8	消費と余暇行動
9	人口と食糧①
10	人口と食糧②
11	交通と通信
12	貿易と経済的な結びつき
13	国家と民族・文化
14	地域開発
15	21世紀の地理学ーこれからの地理学ー
16	試験

【履修上の注意事項】

小レポートを数回提出してもらおう。また、この授業は教科書と地図帳および配布プリントをベースとして進めるので、必ず教科書と地図帳は購入すること。なお、地図帳については、高校生用の地図帳がある場合にはそれでもかまわない。出席を重視するので1/3以上欠席した場合には単位は認定しないので、注意すること。また、追試・再試は行わない。

【評価方法】

小レポート、テスト、出席状況で総合的に判断する。

【テキスト】

新詳 資料 地理の研究、B5判 344ページ 定価980円
 新詳高等地図 1,575円 帝国書院

【参考文献】

授業の中でその都度紹介する。

日本国憲法

担当教員 高良 鉄美、儀部 和歌子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では日本国憲法の基本構造について理解してもらうことを主眼においている。憲法の歴史、基本原理はもちろんのこと、日本国憲法の特徴である平和主義と基本的人権、国民主権との関係についてもどのように絡み合っているのか学習し、憲法の全体構造を捉えることを目的とする。憲法と社会現実、日本国憲法の理念と憲法改正問題、沖縄における憲法問題など身近な問題点についてともに考えて行きたい。

【授業の展開計画】

回数	講義内容説明
第1回	INTRODUCTION
第2回	憲法の内容 憲法とは? 明治憲法
第3回	日本国憲法の歴史
第4回	国民主権 国民主権原理の内容
第5回	平和主義 自衛隊 安保体制
第6回	基本的人権 人権の歴史 分類 幸福追求権
第7回	法の下での平等 平等の内容
第8回	精神的自由権 内面性精神的自由権 思想 宗教
第9回	精神的自由権 外面性精神的自由権 表現の自由
第10回	経済的自由権 財産権 人身の自由 死刑廃止論
第11回	参政権 社会権 選挙権 情報公開 生存権
第12回	国会 内閣 議院内閣制 国政調査権
第13回	裁判所 司法権の独立 憲法の変遷
第14回	財政 地方自治
第15回	期末試験
第16回	まとめ

【履修上の注意事項】

【評価方法】

期末テストの成績、レポート及び出席点で評価する。
レポートは課題を出すのでその中から選択

【テキスト】

教科書 「わたしの憲法手帳」 沖縄県憲法普及協 800円

【参考文献】

日本国憲法

担当教員 一宮崎 政久

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

憲法はその国のかたちを示しています。日本国民によってつくられるこの国のかたちです。本講座では、日本国憲法を知り、この国のかたちを憲法という視点で考えていきます。いまある日本国憲法を通じて、これまでのこと、これからのことを考えます。また、憲法は、法律と政治の接点に位置しています。テレビや新聞での報道にも関心をもち、この国のかたちを憲法の視点で考えます。講義に参加し、ともに考えることのひとつひとつが皆さんの人生の大切なプロセスです。真剣に学ぶことが楽しくなる時間を共有します。

【授業の展開計画】

- (1) 憲法とはどのようなものか:法とはなにか、規範とは、憲法とはなにかを考えます。立憲主義という考え方が基本です。
- (2) 憲法の基本原理:日本国憲法の基本原理ばかりでなく、自然法、法の支配という考え方も学びます。
- (3) 日本国憲法の特徴:大日本帝国憲法と日本国憲法からこの国のかたちを考え、平和主義の構造と現実も考えます。
- (4) 人権とはなにか:人権とは何のためにあるのか、幸福追求権や人権の限界も考えます。
- (5) 人権保障の一般原則:誰が人権の主体か、人権とは誰と誰の間で妥当するのかを考えます。
- (6) 平等原則:なにをもって平等というのでしょうか。平等原則の意味を考えます。
- (7) 内面的な精神活動の自由:人の内心には絶対的な自由があることの意味、政教分離についても考えます。
- (8) 表現の自由と知る権利:表現の自由は何を言ってもいいとはなりません。その制限のあり方を考えます。
- (9) 経済的自由:職業選択の自由や財産権の保障、制限、補償について考えます。
- (10) 社会権:社会や国家との関係で積極的な給付を求める権利について考えます。
- (11) 国会:国会とは何をするとするか、衆議院の解散など新聞でみることを憲法として考えます。
- (12) 内閣と行政権:内閣とは何をするとするか、国家の重要事を運営していることを多面的に学びます。
- (13) 裁判所と司法権:司法権とはなんのでしょうか。裁判をすること?司法権の限界も考えます。
- (14) 違憲審査:憲法に違反するということが、どこで、どうやって判断されるのでしょうか。
- (15) 地方自治:国ではなく一定の地域における運営について憲法はどのように定めているのでしょうか。
- (16) 学期末試験:日本国憲法からこの国のかたちを考えることを問いかけるものです。

【履修上の注意事項】

好奇心と積極的な姿勢をもって講義に臨んで下さい。短い講義時間ですが、その都度、日本国憲法を通じて、皆さんと一緒にこの国のかたちとは何かを考える時間にしたいと考えています。講義を真剣に学ぶ時間とすることで皆さんの学生生活にメリハリがつけます。この講義の時間中、真剣に考えることが楽しくなるはずですが、真剣に講義に臨むため、当たり前のことですが、途中入室や私語は厳にお断りします。ご注意下さい。

【評価方法】

15回の講義は真剣に考え、学ぶプロセスであり、講義に参加し、ともに考えることが評価の重要な対象となります。その上で考えた成果を最後の筆記試験で示してもらいます。いずれも評価の対象と考えております。

【テキスト】

特に指定しません。ただし、講義にはコンパクトサイズでいいので六法を持参して下さい。

【参考文献】

必要に応じて講義で指摘します。

日本国憲法

担当教員 一仲宗根 京子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

そもそも、なぜ憲法は存在するのでしょうか？本講義では、近代立憲主義が確立されてきた歴史や日本国憲法の基本原理を学んだ上で、個々の人権規定の問題点（例えば、他者の人権や社会の利益との調和はどう図られるべきか？など）について、写真や資料を多様した初学者にもなじみやすいテキストを用いて、具体的な事例を基に、共に考えることをねらいとします。併せて、いくつかの外国憲法との若干の比較を通じて、私たちの国の根本法である憲法の特質や未来について考えるきっかけにしたいと思います。

【授業の展開計画】

- 第1回 イントロダクション 及び 「憲法」とは何か？
形式的意味・実質的意味、憲法はだれを縛るルールか？ 立憲主義
- 第2回 近代立憲主義の成立経緯 と 憲法の思想的潮流（法の支配と法治主義）
日本国憲法の特質（自由の基礎法、制限規範性、最高法規性）
- 第3回 日本国憲法の基本原理（①国民主権 ②基本的人権の尊重 ③平和主義）と相互の関係性、
個人の尊厳の重み
- 第4回 人権総論：主体に外国人も含まれるか？ 個別規定のない新しい人権は保障されるのか？
（包括的基本権）人権は無制約か？制約できる場合、その根拠は？
- 第5回 法の下での平等：平等の意味～法内容の平等、更には結果の平等まで保障されるのか？
- 第6回 精神的自由権 1、内心の自由 ①思想良心の自由 ②信教の自由 *信教の自由と政教分離原則
③学問の自由 *学問の自由と大学の自治
- 第7回 精神的自由権 2、表現の自由 *その価値 *表現の自由と知る権利 *報道の自由と名誉毀損
*検閲、教科書検定
- 第8回 経済的自由権 1、職業選択の自由 2、居住移転の自由 3、財産権の保障
*「公共のために用いる」の意味とは？補償の要否・程度
- 第9回 社会権（①生存権 ②教育を受ける権利 ③勤労の権利 ④労働基本権）
*自由権との違いは何か？福祉国家理念がもたらした国の積極的介入とは？
- 第10回 その他の人権（人身の自由、受益権、参政権）、統治総論
*三権（立法権、行政権、司法権）分立とはどういう原理か？
- 第11回 裁判所（司法権） *司法権の独立の意義 *裁判所は法律を無効にできるか？
（違憲審査制）できるとした場合、どのような基準で判断すべきか？
- 第12回 国会（立法権） *国民が自ら直接、立法してはいけないのか？
- 第13回 内閣（行政権） *議院内閣制とは何か？国民が直接、国家のリーダーを選んではいけないのか？
- 第14回 地方自治 *中央の統治システムとはどのように異なっているのか？
- 第15回 学期末試験
- 第16回 まとめ

【履修上の注意事項】

毎回、出席をとります。遅刻や途中入退室、私語は謹んで下さい。初回講義において、講義の進め方、期末試験及び評価方法について、詳しく説明します。

【評価方法】

期末テストの成績、及び、出席状況や講義への参加状況を総合評価して行います。なお、出席点が3分の2に満たない場合には、期末試験の受験は認めません。

【テキスト】

「目で見る憲法（第3版）」 初宿正典 他 編著 有斐閣 2010年（定価 1680円） テキストにも関連条文が載っていますが、コンパクトでもいいので六法も持参される方が望ましいです。

【参考文献】

「憲法 第5版」 芦部信喜 著 高橋和之 補訂 岩波書店 2011年
「四訂 憲法入門」 樋口陽一 著 勁草書房 2008年

文化人類学 I

担当教員 石垣 直

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「文化人類学」とは、「文化」という用語を基礎として世界各地の諸社会および総体としての人間社会について考えていこうという学問である。本講義では、「人間と文化」という視点から人類社会に関わるさまざまなトピックを取り上げて、人類とは何か、人間社会とは何かについて考えていく。

【授業の展開計画】

- ① ガイダンス
- ② 「文化」とは何か？
- ③ 文化人類学の方法論
- ④ 家族・親族・結婚
- ⑤ 社会組織
- ⑥ 贈答・交換
- ⑦ 儀礼・象徴・タブー
- ⑧ 宗教・死・世界観
- ⑨ 法と秩序
- ⑩ 政治制度
- ⑪ 環境と経済
- ⑫ 身体とジェンダー
- ⑬ 個人とアイデンティティ
- ⑭ 民族と国家
- ⑮ まとめ
- ⑯ テスト

【履修上の注意事項】

毎回授業の際に、出席確認をかねて、受講生にレスポンス・ペーパーを配布し、授業に対する感想・質問・意見などを受け付ける。なお、他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意されたい。

【評価方法】

出席（50%）、筆記試験（50%）

毎回の授業時に、出席および授業参加姿勢を確認するため、レスポンス・ペーパーの提出をもとめる。また、学期末には講義中に紹介した諸トピックにかんする筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。

【テキスト】

特になし（毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布する）。

【参考文献】

石川栄吉ほか（編）1995 [1987] 『文化人類学事典』弘文堂。

文化人類学 I

担当教員 栗国 恭子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

文化とはなにか。成立して160年ほどの若い学問である文化人類学の視点をとおして「人間の在り方」を考えてみる。世界の様々な民族の社会・文化を知ることによって自らの文化について考える。

【授業の展開計画】

- 1 週目 文化とは何かー文化人類学の概念・課題と方法ー
- 2 週目 文化人類学とはどのような学問か 人種と民族、方法論
- 3 週目 文化人類学説史① 民族概念・進化主義・伝播主義・機能構造主義
- 4 週目 文化人類学説史② 認知人類学、象徴人類学、人類学の現代のテーマ
- 5 週目 生活の技術・経済の技術① パプアニューギニアトロブリアント諸島のクラ交換
- 6 週目 生活の技術・経済の技術② 海に生きる人々 スールー海の漂海民 国境・国民化
- 7 週目 照葉樹林文化 東アジアの自然と人々の暮らし
- 8 週目 世界の食文化 現代の食文化と日本・アジア 現代問題・グローバル
- 9 週目 西南シルクロード 中国西南部の民族
- 10週目 中国の少数民族文化① 雲南省ナシ族・麗江 社会の構造 婚姻システム
- 11週目 中国の少数民族文化② 雲南省チベット族 観光化・チベット仏教
- 12週目 中国の少数民族文化③ ウイグル自治区中国・カシュガル 文化の記録・金属の技術
- 13週目 東アジアの造形・色彩文化 紙（中国、日本、沖縄の紙の文化）
- 14週目 身体加工・装飾文化 身体概念・アジアの入墨文化・人生儀礼
- 15週目 空間認識の文化 東アジアの空間認識・風水・首里城・民俗方位
- 16週目 テスト レポート

【履修上の注意事項】

*図書館の図書分類380のコーナーには人類学・民族学関連資料にふれ学問のイメージを膨らませて欲しい

【評価方法】

出席・毎時間の感想の確認と学期末のレポートで評価する。

【テキスト】

その他の 講義用のレジュメ・資料は配布する。ビデオなどを使用し、重要な参考文献などは講義の中で紹介する。

【参考文献】

『文化人類学』祖父江孝男編(中公新書)『文化人類学』波平恵美子編(医学書院)『よくわかる文化人類学』綾部・桑山編(ミネルヴァ書房)『文化人類学キーワード』山下晋司編(有斐閣)『文化人類学最新術語100』綾部恒雄

文化人類学Ⅱ

担当教員 石垣 直

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期前半

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義目的は、これまでに提出されてきたさまざまな人類学理論を視野に入れつつ、世界各地の風俗・習慣などに関する理解をさらに深めることにある。

【授業の展開計画】

- 1) ガイダンス
- 2) 「文化人類学」とは何か？
- 3) 学説史（1）——社会進化論・伝播論・文化とパーソナリティ論
- 4) 学説史（2）——機能主義と親族研究
- 5) 学説史（3）——構造主義・象徴論
- 6) 学説史（4）——解釈人類学・実践論
- 7) テスト

【履修上の注意事項】

毎回授業の際に、出席確認をかねて、受講生にレスポンス・ペーパーを配布し、授業に対する感想・質問・意見などを受け付ける。なお、他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意されたい。

【評価方法】

出席（50%）、筆記試験（50%）

毎回の授業時に出席および授業参加姿勢を確認するためのレスポンス・ペーパーの提出をもとめる。また、学期中間あるいは学期末には講義中に紹介した諸トピックにかんする筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。

【テキスト】

特になし（毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布する）。

【参考文献】

綾部恒雄（編）2006『文化人類学20の理論』弘文堂。石川栄吉ほか（編）1995〔1987〕『文化人類学事典』弘文堂。残りは授業中に適宜紹介する。

文化人類学Ⅱ

担当教員 栗国 恭子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

文化とはなにか。成立して160年ほどの若い学問である文化人類学の視点をとおして「人間の在り方」を考えてみる。世界の様々な民族の社会・文化を知ることによって自らの文化について考える。

【授業の展開計画】

*Ⅰ・Ⅱは単独登録可能のため1～4週目が同内容

- 1 週目 文化とは何かー文化人類学の概念・課題と方法ー
- 2 週目 文化人類学とはどのような学問か 人種と民族、方法論
- 3 週目 文化人類学説史 民族概念・進化主義・伝播主義・機能構造主義
- 4 週目 宗教人類学① 超自然・呪術と宗教・アニミズム 「宗教概念」の確認
- 5 週目 宗教人類学② 社会変動と宗教 宗教・政治・民族復興 シャーマニズム
- 6 週目 宗教人類学③ 宗教と現代/カルト
- 7 週目 宗教人類学④ 「靈魂観」の文化象徴ー空飛ぶものの文化ー
- 8 週目 文化表象・語り 象徴と王権 ルーズ・ベネディクトの仕事
- 9 週目 文化表象・展示 文化表象 民族博物館と展示と文化表象
- 10 週目 文化表象 文化ポリティクスとマイノリティー
- 11 週目 構造人類学 レヴィ・ストロースの仕事 「サンタクロースの秘密」
- 12 週目 観光人類学① 文化の語り
- 13 週目 観光人類学② 伝統文化と観光
- 14 週目 開発と文化① 異文化接触 文化の変容
- 15 週目 開発と文化② グローバル化と文化変容
- 16 週目 テスト レポート

【履修上の注意事項】

図書館の図書分類380コーナーの文化人類学・民族学の多くの本に触れ学問 イメージを膨らませて欲しい。

【評価方法】

出席・毎時間の感想の確認と学期末のレポートで評価する。

【テキスト】

指定テキスト特になし

講義用のレジュメ・資料は配布する。ビデオなどを使用し、重要な参考文献などは講義の中で紹介する。

【参考文献】

『文化人類学』祖父江孝男編(中公新書)『文化人類学』波平恵美子編(医学書院)『よくわかる文化人類学』綾部・桑山編(ミネルヴァ書房)『文化人類学キーワード』山下晋司編(有斐閣)『文化人類学最新術語100』綾部恒雄

法学

担当教員 長嶺 弘善

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

法は社会における人々の行為規範として機能しており、私たちは法と向き合って暮らさざるをえない。日常生活における物品購入・借家・借金・保証などの契約関係、交通事故などの損害賠償、婚姻・離婚と親子の問題における法的保護、そして人の生死にかかわる法律問題など、さまざまな法現象が存在する。講義はできるだけ具体的事例に即しておこない、法とは何か、法はこの社会においてどのように機能しているのかを理解することを目標とする。そして、身の回りに生起する具体的な問題を法的に思考し、解決する助けとなることを期待する。

【授業の展開計画】

毎回の授業はそれぞれ異なる分野についておこなうが、法的思考において関連するので、休まずに出席することが、理解の助けとなる。

週	授 業 の 内 容
1	登録確認および導入：法現象
2	六法の使い方：大学の単位と法
3	社会規範としての法：道徳の法化
4	法の分類：公法と私法、私法の一般法
5	出生と法：権利能力、法律行為能力
6	裁判制度：人の行為の法的評価、紛争解決
7	親族の法：親族、親子、親権
8	夫婦の法：婚姻、離婚
9	相続の法：相続、遺言
10	犯罪と刑罰：罪刑法定主義
11	契約の法：私的自治、契約自由
12	不法行為：損害賠償論
13	法の制定：立法権と脳死立法
14	基本的人権：幸福追求と平等
15	まとめ：最高法規としての憲法
16	期末試験

【履修上の注意事項】

テキストを一読し、六法を持参して出席し、講義に集中すること。質問大歓迎。
講義の聞きっぱなしでなく、テキスト再読・ノート整理など、自学すること。

【評価方法】

期末試験（穴埋め式および正誤式）で評価する。出席を考慮する（1割程度）。

【テキスト】

講義にはテキストおよび六法（法令集）が必要である。開講時に紹介する。

【参考文献】

竜崎喜助『生の法律学』（尚学社）、君塚正臣『高校から大学への法学』（法律文化社）

法学

担当教員 徳永 賢治

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

ボランティア論

担当教員 島村 枝美

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

住民主体で進める地域福祉の時代となった今、これまで以上に市民のボランティア活動への参加と期待は拡大している。その活動分野も住民としての地域活動や社会教育活動に限らず地球市民としての国際協力、環境保護活動等、多岐に亘っている。

そのような時代の到来を視野に、ボランティアへの理念・性格・社会的役割・歴史的展開等の知識を高め、且つ、具体的、実践的な理解を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	ボランティアとは
3	ボランティアと現代社会
4	ボランティア活動の社会的役割
5	ボランティア活動の歩み
6	ボランティア活動と「人」とのかかわり
7	ボランティア活動と自己実現
8	ボランティア活動と社会福祉協議会
9	ボランティア活動の現状と課題①
10	ボランティア活動の現状と課題②
11	地域社会（福祉）とボランティア活動
12	ボランティア活動の多様性
13	地球市民と国際ボランティア
14	ボランティア活動と福祉教育
15	ボランティア活動の可能性と期待されるもの
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

ボランティア活動を生活の視点、ライフサイクルの視点から捉え、「お互様」の関係づくりと「身近性」を発見出来るよう、主体的に授業に参加して欲しい。

【評価方法】

成績評価は出席状況、授業態度、レポート、発表、試験等の総合評価によって行う。

【テキスト】

指定なし。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

授業で紹介する。